

畜産経営環境保全実態調査について

平成 26 年 7 月 1 日現在

滋賀県農政水産部畜産課

1. 畜産経営農家戸数

畜産経営農家戸数は201戸であり、飼養畜種の内訳は乳用牛60戸、肉用牛88戸、豚5戸、採卵鶏38戸、肉用鶏10戸となっている。戸数の増減については、前年に比べ乳用牛2戸、肉用牛2戸それぞれ減少しており、肉用鶏1戸増加している。豚および採卵鶏は増減なしであり、合計で3戸減少している。

畜種	農家戸数	飼養戸数 対前年比(%)	管理基準適用状況	
			基準対象	基準以下
乳用牛	60	96.8	60	0
肉用牛	88	97.8	82	6
豚	5	100.0	4	1
採卵鶏	38	100.0	25	13
肉用鶏	10	111.1	3	7
計	201	98.5	174	27

※資料 ・表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数
 ・図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移

2. 畜産経営に起因する苦情の発生状況（注1）

畜産経営に起因する苦情の発生件数は16件で、昨年と比較して8件減少した。

苦情発生率（注2）は8.0%（前年11.8%）となり、前年より減少した。

内容別にみると、悪臭関連が15件であり、このうち、害虫発生を伴うものと水質汚濁を伴うものが各1件あった。また、害虫発生のみによる苦情も1件あった。

畜種別発生件数は、乳用牛が7件、採卵鶏が6件、豚が1件、肉用鶏が1件であった。

	苦情の内容								対応策			
	水質汚濁	悪臭発生	害虫発生	水質汚濁 悪臭発生	水質汚濁 害虫発生	悪臭発生 害虫発生	その他	計	処理施設 助成	処理衛生 技術指導	紛争の 仲介	その他
乳用牛		6	1					7		7		
肉用牛												
豚		1						1		1		
採卵鶏		5				1		6		6		
肉用鶏				1				1		1		
その他		1						1		1		
計		13	1	1		1		16		16		

注1：発生件数は当該年の7月1日までの1年間に市町等行政機関に届け出られたもの

注2：苦情発生率＝発生件数／畜産経営農家戸数

※資料 ・表2 畜産経営に起因する苦情の発生状況
 ・図2 年次別苦情発生件数

3. 家畜排せつ物の処理と利用について

家畜排せつ物の年間発生量(注1)は、乳用牛55千トン、肉用牛167千トン、豚13千トン、採卵鶏19千トン、肉用鶏5千トンで、合計258千トンと推定される。

処理方法別の仕向け量は、発酵処理が222千トン(86.1%)、乾燥処理が23千トン(8.8%)、直接還元処理が13千トン(5.1%)となっている。

堆肥の利用状況は、豚の尿の浄化放流4千トンを除き98%が肥料や土づくり等で農業利用されており、その利用先内訳は自己所有圃場55千トン(31.1%)、他人所有圃場69千トン(39.2%)、販売48千トン(27.3%)となっている。他人所有圃場への利用には、耕種農家との稲わら交換や飼料用米生産等の耕畜連携の取り組みが含まれている。

(単位：千t/年)

	ふん尿発生量	仕向け量			堆肥量	堆肥利用状況			
		発酵処理	乾燥処理	直接還元処理		自己所有圃場	他人所有圃場	販売	浄化放流
乳用牛	55	39	6	10	37	19	11	7	0
肉用牛	167	151	15	1	113	33	52	28	0
豚	13	13	0	0	9	0	4	1	4
採卵鶏	19	15	2	2	13	2	1	10	0
肉用鶏	5	4	0	0	3	0	1	2	0
計	258	222 (86.1%)	23 (8.8%)	13 (5.1%)	176	55 (31.1%)	69 (39.2%)	48 (27.3%)	4 (2.4%)

注1：発生量は、家畜飼養頭羽数に原単位を乗じて算出したもの

- ※資料
- ・表3 家畜排せつ物発生量
 - ・図3 年次別家畜排せつ物総発生量
 - ・別紙 「堆肥の利用」

表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戶数

乳用牛	農家戸数		管理基準適用戶数	
		対前年比		割合
H21	77	93.9	76	98.7
H22	73	95.2	73	100.0
H23	69	94.1	68	98.6
H24	66	95.7	66	100.0
H25	62	93.9	62	100.0
H26	60	96.8	60	100.0

肉用牛	農家戸数		管理基準適用戶数	
		対前年比		割合
H21	93	93.0	87	93.8
H22	96	103.2	84	87.5
H23	94	97.9	82	87.2
H24	93	98.9	81	87.1
H25	90	96.8	79	87.8
H26	88	97.8	82	93.2

豚	農家戸数		管理基準適用戶数	
		対前年比		割合
H21	12	80.0	9	75.0
H22	12	100.0	10	83.3
H23	11	91.7	8	72.7
H24	7	63.6	4	57.1
H25	5	71.4	4	80.0
H26	5	100.0	4	80.0

採卵鶏	農家戸数		管理基準適用戶数	
		対前年比		割合
H21	45	107.1	30	66.7
H22	46	102.2	32	69.6
H23	45	97.8	30	66.7
H24	42	93.3	29	69.0
H25	38	90.5	26	68.4
H26	38	100.0	25	65.8

肉用鶏	農家戸数		管理基準適用戶数	
		対前年比		割合
H21	11	91.7	5	45.5
H22	11	100.0	3	27.3
H23	11	100.0	3	27.3
H24	11	100.0	3	27.3
H25	9	81.8	3	33.3
H26	10	111.1	3	30.0

* 管理基準とは家畜排せつ物法第3条に基づき、畜産業を営む者が遵守すべき基準
 管理基準適用対象は、牛は10頭以上、豚は100頭以上、鶏は2,000羽以上

図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移

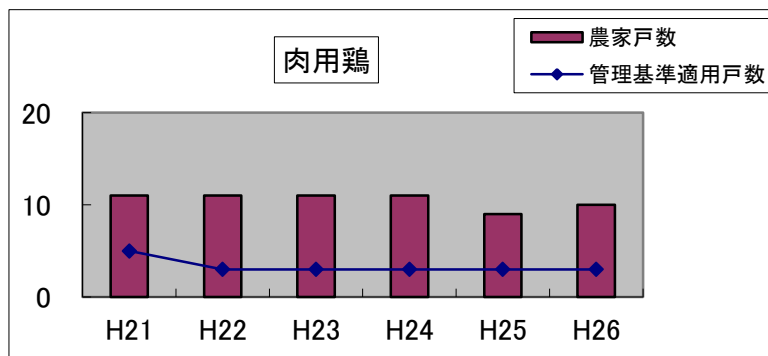
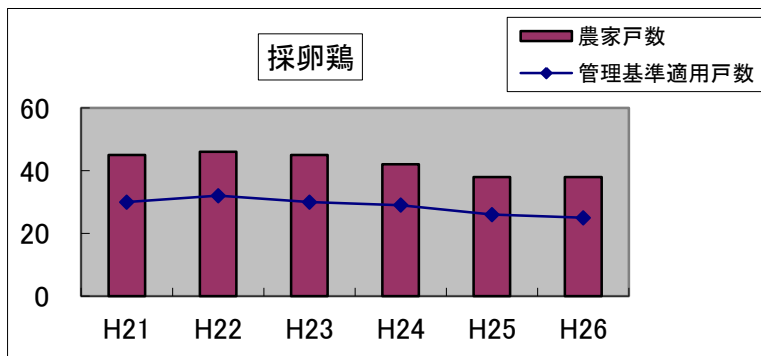
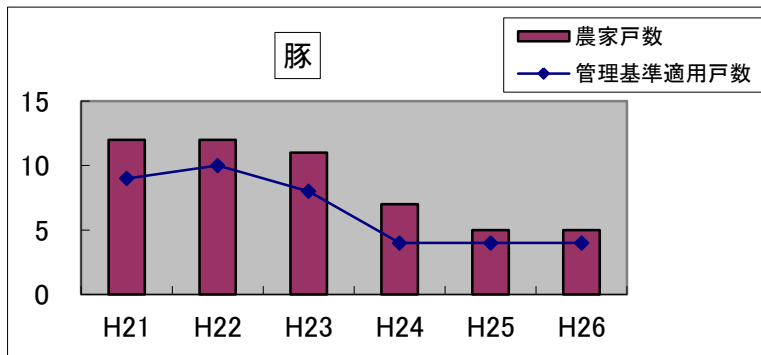
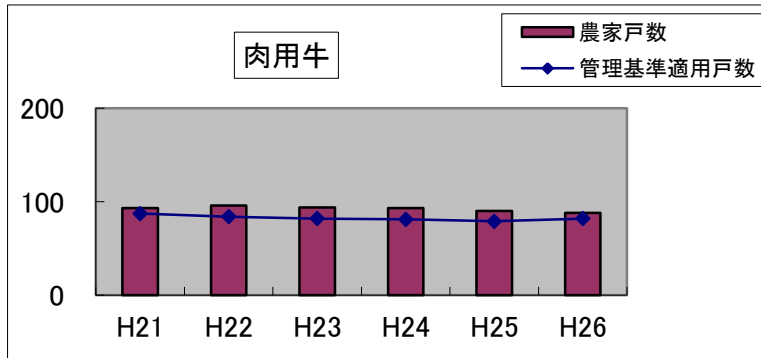
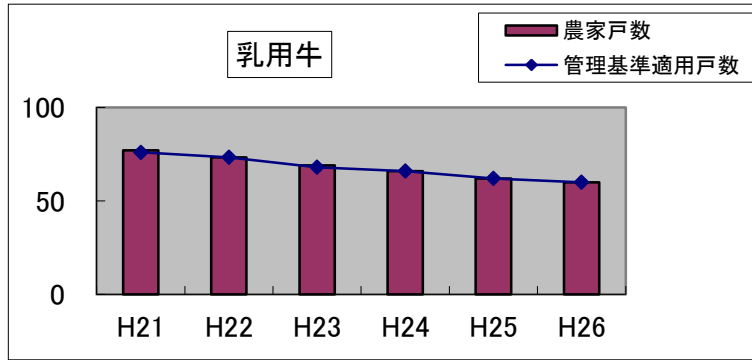
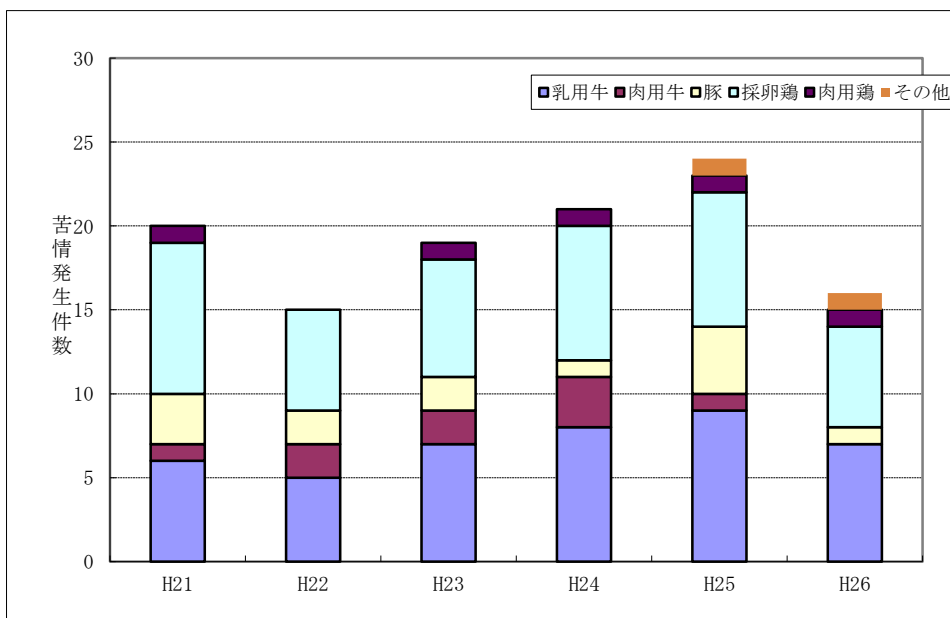


表2 畜産経営に起因する苦情の発生状況

年度	区分	苦情の内容								対応策				
		水質汚濁	悪臭発生	害虫発生	水質汚濁と悪臭発生	水質汚濁と害虫発生	悪臭発生と害虫発生	その他	計	処理施設助成	処理衛生技術指導	移転の斡旋	紛争の仲介	その他
21	乳用牛		5					1	6		6			
	肉用牛		1						1		1			
	養豚		2				1		3		2			1
	採卵鶏		4	2			3		9		9			
	肉用鶏		1						1		1			
	計		13	2			4	1	20		19			1
22	乳用牛		5						5		5			
	肉用牛		2						2		2			
	養豚		1	1					2		2			
	採卵鶏		2	2			2		6		5		1	
	肉用鶏													
	計		10	3			2		15		14		1	
23	乳用牛		6				1		7		6			1
	肉用牛		2						2		2			
	養豚		2						2		2			
	採卵鶏		3	2			2		7		7			
	肉用鶏		1						1		1			
	計		14	2			3		19		18			1
24	乳用牛		7	1					8		8			
	肉用牛		1	1				1	3		3			
	養豚		1						1		1			
	採卵鶏	1	3				4		8		8			
	肉用鶏		1						1		1			
	計	1	13	2			4	1	21		21			0
25	乳用牛	0	9	0	0	0	0	0	9		9			
	肉用牛	0	1	0	0	0	0	0	1		1			
	養豚	0	4	0	0	0	0	0	4		4			
	採卵鶏	0	7	0	0	0	1	0	8		8			
	肉用鶏	0	0	0	1	0	0	0	1		1			
	その他	0	1	0	0	0	0	0	1		1			
	計	0	22	0	1	0	1	0	24		24			0
26	乳用牛	0	6	1	0	0	0	0	7		7			
	肉用牛	0	0	0	0	0	0	0	0		0			
	養豚	0	1	0	0	0	0	0	1		1			
	採卵鶏	0	5	0	0	0	1	0	6		6			
	肉用鶏	0	0	0	1	0	0	0	1		1			
	その他	0	1	0	0	0	0	0	1		1			
	計	0	13	1	1	0	1	0	16		16			0

図2 年次別苦情発生件数



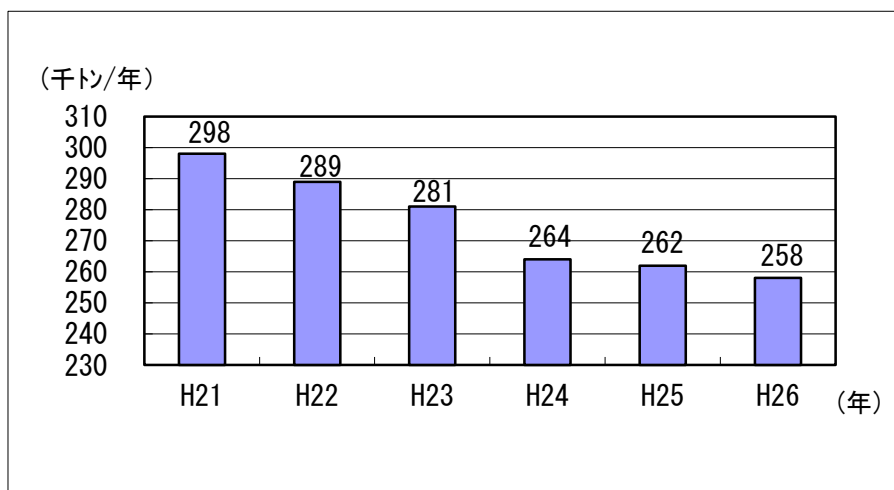
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
戸数(戸)	238	238	230	219	204	201
苦情発生率	8.4%	6.3%	8.3%	9.6%	11.8%	8.0%

表3 家畜排せつ物発生量

	総発生量 (t/年)						肥料成分推定量		耕地面積 (ha)			耕地面積 あたり窒 素負荷量 (kgN/ha)
	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	窒素 (tN/年)	リン (tP/年)	田	畑			
H 2 1	298,047	79,193	159,430	23,838	29,060	6,526	2,243	326	53,800	49,500	4,290	41.7
H 2 2	289,726	74,174	158,860	23,338	27,947	5,407	2,154	315	53,500	49,300	4,220	40.3
H 2 3	281,132	73,494	155,491	18,702	27,342	6,103	2,106	304	53,400	49,200	4,180	39.4
H 2 4	263,855	66,224	158,165	11,364	23,207	4,896	1,939	278	53,300	49,100	4,180	36.4
H 2 5	261,857	60,376	164,474	13,133	19,468	4,406	1,839	261	53,300	49,100	4,180	34.5
H 2 6	258,452	54,958	166,771	13,283	18,911	4,529	1,817	257	53,000	48,900	4,150	34.3

- * 発生量および肥料成分推定量は、飼養頭羽数に原単位を乗じたもの
- * 原単位は農林水産省農業研究センター公表¹⁾を使用
¹⁾：(財)畜産環境整備機構：家畜ふん尿処理・利用の手引き、3-5(1998)
- * 耕地面積は、農林水産省平成25年産作物統計より

図3 年次別家畜排せつ物総発生量



家畜ふん尿の発生と家畜ふん堆肥の利用について

1. 生産と利用の経過

年度	家畜ふん尿発生量 (千t/年)	堆肥量 (千t/年)	利用可能面積(ha)	耕畜連携	
				利用率 (%)	利用量 (千t/年)
H 21	298	203	12,760	64	132
H 22	289	197	12,355	65	127
H 23	281	191	11,905	65	124
H 24	264	179	10,788	67	121
H 25	262	178	10,560	66	118
H 26	258	176	10,440	67	117

利用可能面積は、堆肥量を畜種別利用可能量で除した面積。

2. H26 生産と利用の状況

